



一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会

2022 年 - 2026 年 中期計画書

05/MAR/2022 revision



MOZAMBIQUE





一人ひとりのいのちを守るために。 10年目の新たな挑戦。

Background

背景

豊富な資源や人口増加を背景に“資本主義最後の楽園”といわれ熱い注目を浴びるアフリカ。

その東南部に位置するモザンビーク共和国は人間開発指数は189カ国中181位であり、人口の60%は1日の収入がUS\$1.25以下（貧困ライン）の絶対的貧困状態にあり、依然として世界の最貧国の1つです。

PVM（モザンビークのいのちをつなぐ会）の活動地である北部カーボデルガド州は最貧困国の中でも貧困率の高い地域である上、日本を含む先進国主導による巨大天然ガスプロジェクトにおける不平等な開発行為への不信感や不満の高まりを背景に、イスラム過激派の攻撃が2017年に勃発、2019年から激化。これまで死者は3,000人を超え、80万人が国内避難民に。また90万人が食糧難に瀕しており、深刻かつ逼迫した状況が続いています。

またカーボデルガド州では安全な水や食料へのアクセス率が低く、慢性的な栄養不良や病気で5.5人に1人の子どもが5歳未満で亡くなっており、スラム地区では7割に近い失業率や避難民の流入、コレラの流行、栄養失調の子どもの増加など、問題は山積しています。

Concept

理念

**今日を生きるから、未来に生きるへ。
貧困地に生きる皆のいのちを守り、
未来を切り拓く創造力を鍛える。**

外資の参入が増加し、潤沢なマネーを武器にしたアフリカの新植民地時代といわれる今。

PVMは、人々が生き抜くために必要な「知識と知恵」を日本との協力によって注ぎ、モザンビークの貧困層が抱える問題を住民一人ひとりが自らの力で解決できるようサポート。

地域の人たちの力で、貧困エリアの教育と健康、食、環境等のQOL（生活の質）の改善に努め、ひいては同じ世界に生きる人々の生命の尊厳の向上に貢献します。

2023年で設立10年。NGO活動の持続とコミュニティの強化のための挑戦を開始！

小さいけれど、チカラ持ち！ Small but Mighty!

モザンビークのいのちをつなぐ会は「**小さいけれど、チカラ持ち！**」をスローガンに
スラム地区の青年有志や住民と力をあわせて、地道かつ実効力ある活動を行っています。
コミュニティの相互扶助力を高めるダイレクトな活動を行うことを信念にしています。

最貧困国の最貧困地。グローバルキャピタルの相対としての「不可視化され、
支援もされない土地」。モザンビーク北部で、2013年に活動を開始。

- モザンビーク共和国カーボデルガド州はかつてより「忘れられた州」と呼ばれており社会投資が行われてきませんでした。天然ガス開発により一挙に注目を浴びるも、政策改善は行われず、依然、貧困率が国内でも最も低い州のままです。
- 先進国による開発により問題化するネガティブな事態の対応策として、国際機関や日本を含む開発国から多額の資金がモザンビークに投入されていますが、残念ながら、貧困地区の住民たちのもとに国際支援が届くことはほとんどないのが現状です。
- この地で当会は、2013年よりスラム地区に住みながら現地有志、住民と強固な信頼関係を構築し、支援代理業務や中間支援行為ではなく、地道な「直接活動」を行っています。

相互扶助力を強化しながら、コミュニティのQOLを向上していく。
現地住民と一体となり、現地住民を主役とした直接活動に力を注いでいます。

- グローバル資本主義の「支援・開発」をモチーフにした、マネタイズ化が拡大する中、現地主体となった「直接支援」が重要であり、当会では団体の規模を大きくすることを目的にせず、あくまでもコミュニティに根ざした活動にこだわっています。
- 支援地域の貧困者を主役にした活動を展開。活動の人力、物品の購入に関しても、地域のひととモノを活用し、コミュニティの経済活動の活性に貢献できるよう努めています。

青年有志総勢100名が各活動を分担し、コミュニティの問題解決や
新たな活動の創造に取り組んでいます。

- 寺子屋教育と配食活動に14名、公衆衛生活動に6名、環境活動に57名、被災者支援活動に18名、その他のマーケティングや事務で6名と、大学生やアーティスト、公務員、職人さん…等など約100人のメンバーが活動ごとにチカラを合わせています。
現地の労働教育や雇用創出にも大いに役立っています。



モザンビークスタッフが自分の行っている仕事がどのような位置づけでコミュニティに役立っているのかを鳥瞰的に認識でき、自身の創造性も高められるようにするためポルトガル語で作成。日本語版は日本での広報ツールに活用。

**<中期目標> 子どもたちと現地スタッフの夢をサポート出来る仕組みを整え、
かつコミュニティの経済と社会支援の循環を創る。**

	これまでの成果	2022年	2023年	2024年	2025年～2026年
事業目標	事業継続 スタッフを 95名に強化	各施設の安全確保 ベンバ及びナンブラ 寺子屋と避難民の家の 設備整備	小さな商いPJのための 基盤構築 人材教育と資機材見積 資金調達	小さな商いPJを軌道 に乗せていく 可能な事業から着手。 運営の安定化を図る。	支援/事業活動の循環 寄付、事業創出、 社会活動への還元 への循環形成
課題	スタッフが自費で 配食活動を行い 負担が増大。	スタッフが健やかに暮らしていくための人件費・活動費の確保			
特に注力する 分野	テロ被災者支援	避難民の家整備 水環境の整備	奨学基金の設置 小さな商いPJ	小さな商いPJ 資金調達、事業化	技術習得 制度づくり
事業活動	スタッフ95名	スタッフ105名	スタッフ115名	スタッフ130名	スタッフ150名
教育・寺子屋 ベンバ寺子屋 ナンブラ寺子屋 ナンブラ寺子屋は テロ終息後、規模 縮小予定。	コミュニティと テロ避難民の 子どもたち 約300名が通所	教育：道徳を基盤にした読み書き、算数、英語、工作、音楽、平和教育等の教育の継続 配食活動（1日1食以下率15%⇒皆が1日2食は摂食できるように） ・ベンバ寺子屋井戸修理 ・ナンブラ寺子屋井戸設置 ・防犯の強化 ・状況に合わせて、平和教育、ICT教育、国際交流等を重点教育にする。			
公衆衛生	細菌ウイルス等 感染症死亡率低減	毎年、公衆衛生教育（手洗い、歯磨き、うがい、爪切り等）、保健管理を実施していく。			
		コロナ対策	HIV予防対策教室		
環境保全	ベンバ美化活動 環境WS	ベンバ環境美化活動			
		省エネプロジェクト	海洋プラスチック対策		
テロ紛争 被災者支援	避難民の家 配食、衣料配布	避難民の家の水環境及び 設備整備、居住本格開始	国際船便が再開し次第、衣料等を福岡から ベンバへ随時輸送		避難民の家を地域セン ター・市場として活用
国際相互理 解	講義講演活動	日本・欧州での音楽・文化イベントの実施			
農業等	食べられる緑化	バナナ・モリンガ・果樹による食べられる緑化活動			
【NEW】 小さな商い プロジェクト		想定事業の具体化 資機材の見積 資金調達	運送 食堂・製粉	パン屋 美容室	自動車整備 裁縫
組織活動					
優先事項		ベンバ共同組合での 助成金さがし	海外の助成金活用 スタッフ研修	海外助成金強化 スタッフの国内外研修	団体内起業制度の 導入
取り組み	一般社団法人設立 ベンバ共同組合設立	・中古車（SUV）購入 ・カーボデルガド州の 協働団体探し	・ODAを利用を考慮 ・現地団体と連携	・研修システム構築 ・中古車2台目確保	・中古車3台目確保 起業制度導入
		コロナ終息後、欧米機関との面談（ポルトガル、フランス、スイス等） 縦横のネットワークが不足しているため、毎年、JICAや大使館と面談する。			
広報	月刊ニュースレター （480人） 企業情報誌（2社） SNS （FB, Insta） HP	・企業とタイアップ ・クラウドファンディング ・動画作成・Youtube及びSNS（モザンビークと日本で動画作成） ・小冊子Ver3～作成→モザ進出企業や福岡の企業へ配布 ・政治ルート開拓 ・メディア、広報企業と打ち合わせ			・Youtube収益化 ・定期寄付100名 ・海外メディアルートの 開拓
	これまでの成果	2022年	2023年	2024年	2025年～2026年

Prospect

見 通 し

モザンビーク北部唯一の日本の草の根NGOとして。
コミュニティの相互扶助力を高める支援活動を、地道にしっかりと歩み続けるために。

2023年度には設立から10年目となるPVM（モザンビークのいのちをつなぐ会）。

これまで猪突猛進で活動を展開し、主要活動であるスラムの学舎・ペンバ寺子屋も現地に定着し、各プロジェクトに携わるスタッフは100名近くまで増加している。

一方で、寄付に依存できず助成金を主とした資金で活動を展開しており、人件費が捻出できない上に、捻出できた人件費から、テロ被災者支援活動に拠出する等、活動すればするほど当会スタッフの生活が厳しくなる状況に陥っているため、「小さな商いプロジェクト」を柱として、現地で人件費と支援資金を作りながら、コミュニティのQOLを高めると同時に経済循環にも貢献する活動に力を注ぐ。

一方、2017年に勃発し、2019年から激化しているイスラム過激派の攻撃は依然続いており、当会関係者や関係者家族も行方不明、拉致等の被害に遭っている。イスラム過激派の攻撃は範囲を拡大していることが最も懸念する事案であり、安全・防犯・平和教育の強化が必須。

スラム地区に居住する非アフリカ人は当会代表のみであり地域にイスラム過激派が混在していること、かつテロ被災者支援への資金の優先度を取り、現地渡航を控えているが、治安が安定しかつ渡航資金が出来次第、現地で人材育成に注力していく。日本人の若手人員のモザンビークへの派遣も考えている。

Strategy

計 画

2022年度

テロ紛争が続く治安が悪化している為、防犯、車両、水設備の強化を優先。

【事業目標】 ペンバ寺子屋、ナンブラ寺子屋、避難民の家（Casa de Paz）の安全確保

【特に注力する分野】 避難民の家の整備（居住エリアの整備、トイレや水道の水設備の整備）

【各活動の主な取り組み】 スタッフ105名

<教育活動> ●教育・配食活動継続 ●ペンバ寺子屋井戸と防犯扉修理、設備整備
●ナンブラ寺子屋水環境、設備整備

<公衆衛生活動> ●公衆衛生教育継続 ●コロナ対策

<環境保全活動> ●ペンバ環境美化活動 ●省エネプロジェクト

<テロ被災者支援活動> ●避難民の家の整備と居住開始 ◎国際船便再開し次第、支援物資輸送

<国際交流活動> ●日本・欧米での音楽と文化イベントの実施（但し、当会はコロナ自粛派）

<農業等> ●食べられる緑化（バナナ、モリンガ）、テロが終息後有機農業を再開

<小さな商いプロジェクト> ●想定事業の具体化、資機材の見積り、資金調達

【組織活動の優先事項】 ペンバ共同組合での助成金さがし

<取り組み> ●中古車（SUV）購入 ●カーゴデルガド州現地草の根NGO探し

◎コロナ終息後、欧米機関との面談（ポルトガル、フランス、スイス等）

◎JICA、大使館とのアライアンスづくり

<広報活動> ●企業とのタイアップ寄付

◎動画作成習慣づけ、Youtube及びSNS投稿（モザンビークと日本で撮影編集）

◎小冊子Ver.3～毎年制作し、モザンビーク進出企業及び福岡の企業等に郵送

◎政治家ルートの開拓 ◎メディア、広報企業との打ち合わせ

2023年度

安全第一で、「小さな商いプロジェクト」の基盤づくりに着手。

【事業目標】 小さな商いプロジェクトのための基盤構築

⇒人材教育と資機材見積り、資金調達

【特に注力する分野】 奨学金基金の設置、小さな商いプロジェクト

【各活動の主な取り組み】 スタッフ115名

＜教育活動＞ ●教育・配食活動継続 ●奨学金基金設置

◎状況に合わせて、平和教育、ICT教育、国際交流等を重点教育にする

＜公衆衛生活動＞ ●公衆衛生教育継続 ●HIV対策

＜環境保全活動＞ ●ペンバ環境美化活動 ●省エネプロジェクト ●海洋プラスチック対策

＜テロ被災者支援活動＞ ●避難民の家の管理 ◎国際船便再開し次第、支援物資輸送

＜国際交流活動＞ ●日本・欧米での音楽と文化イベントの実施（但し、当会はコロナ自粛派）

＜農業等＞ ●食べられる緑化（バナナ、モリンガ）、テロが終息後有機農業を再開

＜小さな商いプロジェクト＞ ●運送（トラック購入） ●食堂・製粉（寺子屋か避難民の家）

【組織活動の優先事項】 海外の助成金活用、スタッフ研修

＜取り組み＞ ●ODA利用するか否かの検討 ●カーボデルガド州現地草の根NGOとの連携

◎コロナ終息後、欧米機関との面談（ポルトガル、フランス、スイス等）

◎JICA、大使館とのアライアンスづくり

＜広報活動＞ ●クラウドファンディング

◎動画作成習慣づけ、Youtube及びSNS投稿（モザンビークと日本で撮影編集）

◎小冊子Ver.3～毎年制作し、モザンビーク進出企業及び福岡の企業等に郵送

◎政治家ルートの開拓 ◎メディア、広報企業との打ち合わせ

2024年度

人材育成を強化し、「小さな商いプロジェクト」の定着強化を図る。

【事業目標】 小さな商いプロジェクトを軌道に乗せる

⇒可能な事業から順次スタートし、運営の安定化を図る。

【特に注力する分野】 小さな商いプロジェクトの資金調達・事業化

【各活動の主な取り組み】 スタッフ130名

＜教育活動＞ ●教育・配食活動継続 ●奨学金基金設置

◎状況に合わせて、平和教育、ICT教育、国際交流等を重点教育にする

＜公衆衛生活動＞ ●公衆衛生教育継続 ●HIV対策

＜環境保全活動＞ ●ペンバ環境美化活動 ●省エネプロジェクト ●海洋プラスチック対策

＜テロ被災者支援活動＞ ●避難民の家の管理 ◎国際船便再開し次第、支援物資輸送

＜国際交流活動＞ ●日本・欧米での音楽と文化イベントの実施（但し、当会はコロナ自粛派）

＜農業等＞ ●食べられる緑化（バナナ、モリンガ）、テロが終息後有機農業を再開

＜小さな商いプロジェクト＞ ●パン屋（機材購入） ●美容室（資機材購入）

【組織活動の優先事項】 海外の助成金強化、スタッフの国内外研修

＜取り組み＞ ●研修システム構築 ●中古車2台目調達

◎コロナ終息後、欧米機関との面談（ポルトガル、フランス、スイス等）

◎JICA、大使館とのアライアンスづくり

＜広報活動＞ ●クラウドファンディング

◎動画作成習慣づけ、Youtube及びSNS投稿（モザンビークと日本で撮影編集）

◎小冊子Ver.3～毎年制作し、モザンビーク進出企業及び福岡の企業等に郵送

◎政治家ルートの開拓 ◎メディア、広報企業との打ち合わせ

2025-2026年度

コミュニティの経済と社会支援の循環が始まる。

【事業目標】 社会支援と事業活動の循環
⇒寄付、事業創出、社会活動への還元への経済循環形成。

【特に注力する分野】 技術習得制度づくり

【各活動の主な取り組み】 スタッフ150名

- ＜教育活動＞ ●教育・配食活動継続 ●奨学金基金設置
◎状況に合わせて、平和教育、ICT教育、国際交流等を重点教育にする
- ＜公衆衛生活動＞ ●公衆衛生教育継続 ●HIV対策
- ＜環境保全活動＞ ●ペンバ環境美化活動 ●省エネプロジェクト ●海洋プラスチック対策
- ＜テロ被災者支援活動＞ ●避難民の家をコミュニティの場・市場として活用
- ＜国際交流活動＞ ●日本・欧米での音楽と文化イベントの実施（但し、当会はコロナ自粛派）
- ＜農業等＞ ●食べられる緑化（バナナ、モリンガ）、テロが終息後有機農業を再開
- ＜小さな商いプロジェクト＞ ●自動車整備 ●裁縫 ●溶接 ●大工

【組織活動の優先事項】 団体内起業制度の導入

- ＜取り組み＞ ●中古車3台目購入 ●起業制度導入
◎コロナ終息後、欧米機関との面談（ポルトガル、フランス、スイス等）
◎JICA、大使館とのアライアンスづくり
- ＜広報活動＞ ●クラウドファンディング
◎Youtube収益化 ◎定期寄付100名 ◎海外メディアルートの開拓



Contact : enomegu@gmail.com / may@tsunagukai.com

■日本事務所

〒800-0233 福岡県北九州市小倉南区朽網西3-12-6 Tel&Fax: 093-472-1444

■モザンビーク事務所

Rua sem Saida, Bairro de Natite, Pemba, Cabo Delgado, Mozambique Zip:3200
寺子屋ディレクター・ナジャ携帯電話：+258 87 7417034 榎本: +258 86 5130004



ホームページ



MOZAMBIQUE.PVM
Instagram

<http://www.tsunagukai.com>